

| 重点目標  | 具体的取組  | 実現状況の達成度判断基準   | 集計結果  | 分析（成果と課題）及び次年度の取組（改善策等）  |
|---|--|--|---|--|
| 1 生徒一人ひとりの能力に応じたきめ細かな学習指導により、基礎学力を養い、学校全体の質の向上に努める。   | ① 授業への意欲を高め、基礎学力の定着・向上を図るため、指導及び評価の方法を工夫する。  | 教員対象のアンケートにおいて<br>各教科において基礎学力が向上した生徒の割合が<br>A 80%以上である。<br>B 70%以上である。<br>C 60%以上である。<br>D 60%未満である。 | A=12.5%<br>B=37.5%<br>C=25.0%<br>D=25.0%                | 年度当初よりICT等の積極的な活用、学ぶ意欲の向上を目指し、授業改善の取組を学校全体で行っている。その結果、積極的に授業に参加する生徒も増加し、8月に行われた教員アンケートでは、A+B評価(70%以上)が33%であったが、12月に行われたアンケートでは、50%と17ポイント上昇している。12月に行われた生徒による授業評価でも、「授業内容がおおむね理解でき、学力が以前より向上していると思う」と答える生徒が「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計で90%となり、取組の成果が見られたと思われる。次年度も、ICTやアクティブラーニング等を積極的に活用し、生徒の基礎学力の向上を一層図っていききたい。 |
|   | ② 授業力の改善や教員としての資質の向上を図るため、校内研修を充実するとともに、校外への研修に参加する。   | 校外及び校内への研修に<br>A 7回以上参加した。<br>B 6回参加した。<br>C 5回参加した。<br>D 4回以下であった。                                  | A=50.0%<br>B=12.5%<br>C=12.5%<br>D=25.0%<br>(A+B=62.5%) | 昨年度は授業改善に向けた校内研修を多く取り入れ、その成果が得られたことから、今年度は教員としての更なる資質向上を目指し特別支援教育の校内研修を新たに企画した。来年度も、新たな課題を見つけその克服のための研修を企画し、生徒を多角的な面からサポートできる環境づくりを行っていききたい。また、A+B評価を目標の80%以上とするためには、校内研修の充実だけでなく、校外研修の積極的な活用も必要と考えており、その雰囲気づくりにも努めていく。  |
|   | ③ ICT機器を活用するなどして、授業改善に努める。   | ICT機器を授業に積極的に活用している教員が<br>A 90%以上である。<br>B 80%以上である。<br>C 70%以上である。<br>D 70%未満である。                   | D<br>(25%)  | 授業にICT機器を「積極的に活用」が25%であったが、「必要に応じて活用」が75%であり、ICT機器を活用することに対する抵抗感は、ほとんどなくなっている。今後機材の台数の増加が見込まれれば、更に活用する割合が改善していくと思われる。今年度設置された無線LANを有効に活用することにより、今後一層わかりやすい授業となるよう授業改善を図っていききたい。  |
| 学校関係者評価委員会の評価   | 今年度実施した特別支援教育の校内研修のように、本校の実情に応じた研修をより多く増やして行ってほしい。<br>校内LANの活用においては、セキュリティー等の配慮を十分に行ってほしい。                                   |  |   |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策                           | 今年度実施した特別支援教育の研修も含め、次年度は更に校内の研修を充実するとともに、校外研修等への参加を促し、研究と修養に努める。<br>セキュリティー等の十分な配慮のもと、ICT機器を効果的に利用しながら、生徒の学習意欲を高める工夫をしていく。   |  |   |  |
| 2 基本的な生活習慣を確立するとともに、いじめや暴力行為等の未然防止の取組を充実し、規範意識の向上を図る。 | ① いじめや暴力、携帯電話等を介した不適切な書き込みの未然防止のため、集会や研修等の充実を図る。   | いじめや暴力等に関する特別指導件数が<br>A 0件である。<br>B 1件である。<br>C 2件である。<br>D 3件以上である。                                 | B<br>(1件)   | いじめや暴力等に関しては、特別指導歴のある生徒に対して、丁寧な観察と声かけ等を行いながら未然防止を図ってきたが、生徒間暴力が1件起きた。生徒たちには、集会や各教室での一斉指導だけでなく、その後の生徒の実情に応じた丁寧な対応が必要になってきている。また、生徒たちに関わる全職員で、生徒の情緒の安定が図れる授業や学校生活の展開に対する工夫をしながら、更に安心して安全な学校づくりを目指したい。   |
|   | ② 服装や行動様式に関して適切に実践できるよう、個別指導を充実する。   | 服装や髪型等のきまりを意識して行動していると思う生徒が<br>A 90%以上いる。<br>B 80%以上いる。<br>C 70%以上いる。<br>D 70%未満である。                 | B<br>(84%)  | 前年度より「とてもあてはまる」と答えた生徒の割合が14%増加した。今年度は、7月アンケートで評価の低かった3年次生に力点を置いて指導を重ねてきたが、その都度の指導に対する修正はできても、根幹の意識の高めることは難しかった。しかし、そのような生徒に対しても粘り強い指導を行った結果、卒業式には落ち着いた態度で参加させることができた。<br>次年度は新たに定期的な「身だしなみ検査」を実施するなど、学校全体で取り組んでいきたい。   |
|   | ③ 基本的な生活習慣を確立するため、家庭との連携を密にするとともに、朝食摂取習慣の定着を目指し、指導を工夫する。   | 朝食を毎日食べる生徒が<br>A 80%以上いる。<br>B 70%以上いる。<br>C 60%以上いる。<br>D 60%未満である。                                 | D<br>(53%)  | 前年度までの指導で、基本的な生活習慣に改善傾向が見られたことから、朝食摂取習慣の改善も期待したが、結果はD評価であった。早寝や早起きに困難さを抱えた生徒(約1割)にとって、朝食を食べて登校すること自体難しいことなのかもしれない。しかし他のアンケートで、「諦めずに努力している」と答える生徒が、平成26年度16~38%、平成27年度35~46%、平成28年度48~54%と確実に増え、諦めない努力を意識している生徒の様子を確認できる。<br>今後この意識を行動に結びつけるため、各課、各学年、保護者、地域関係機関との連携、協働、支援を強化・工夫していききたい。                      |
| 学校関係者評価委員会の評価   | 社会のいかなる組織にも規則はあるのだから、学校においても校則を遵守することを徹底してもらいたい。<br>朝食摂取の習慣をつけさせるには、保護者の理解と協力が必要ではないか。                                       |  |   |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策                           | 生徒の規範意識の確立のため、次年度から「身だしなみ検査」を定期的実施する予定である。<br>朝食摂取の習慣に関しては、保健室便り等を通して保護者の理解を求めていくとともに、外部人材を活用するなど指導を充実し、生徒にその大切さを粘り強く指導していく。 |  |   |  |

| 重点目標   | 具体的取組  | 実現状況の達成度判断基準  | 集計結果                                       | 分析（成果と課題）及び次年度の取組（改善策等）   |
|--|--|---|--|---|
| <p>3 教育活動全体を通じて主体性やコミュニケーション能力等の社会性を身に付け、社会人として必要な基礎能力を育む。</p>   | <p>① 生徒が自主的に活動し、自分の考えを発言できるよう、授業にアクティブラーニング等を積極的に取り入れる。</p>  | <p>授業中、自分の考えや意見を述べることのできる生徒の割合が、<br/>A 70%以上である。<br/>B 60%以上である。<br/>C 50%以上である。<br/>D 50%未満である。</p>  | <p>A<br/>(82%)</p>                         | <p>生徒による授業評価の「授業中に、自分の意見を言うことができる」という項目では、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計が、昨年度と本年度の中間報告では71%であったが、12月調査では82%と11ポイント上昇した。このことは、アクティブラーニングを取り入れた授業内容が増え、生徒達が自らの意見や考えを発表する機会が増加しているためと思われる。次年度も引き続き生徒が主体的に活動する場面を多く取り入れた授業を実践し、自分の思いを自分の言葉で表現できるコミュニケーション能力の一層の向上を目指していきたい。</p>   |
|  | <p>② 定通大会、体育祭、文化祭、球技大会等において、主体性を持って取り組み、自己有用感と協調性を高める工夫をする。</p>  | <p>定通大会、文化祭、球技大会等の各種行事に、<br/>A 積極的に取り組んだ。<br/>B だいたい取り組んだ。<br/>C あまり取り組まなかった。<br/>D ほとんど取り組まなかった。</p> | <p>A=60%<br/>B=24%<br/>C=12%<br/>D=4%</p>  | <p>A+Bの数値が本年度中間報告からは、84%と横ばい状態ではあるが、評価の良かった昨年と比べても、Aが52%から60%と増えており、生徒たちが各種行事に積極的に取り組んでいたと考えられる。しかし、今回も7人の生徒の満足度が上がらなかった。次年度は、各学年の実態を踏まえた行事を企画するとともに、生徒一人ひとりが一層積極的に行事に取り組み、更に満足度が高まるよう内容や運営方法等の工夫・改善に努めていきたい。</p>   |
|  | <p>③ 校歌を大きな声で歌えるようにするため、LH等を利用した練習機会を設定したり、集会や行事ごとに歌う場面を設けて、指導する。</p>  | <p>各種行事で校歌を、<br/>A 大きな声で歌うことができる。<br/>B だいたい歌うことができる。<br/>C あまり歌えない。<br/>D ほとんど歌えない。</p>              | <p>A=20%<br/>B=47%<br/>C=22%<br/>D=11%</p> | <p>今年度は、集会ごとに校歌を歌い、その都度評価を示しながら、不十分な場合は指導と練習を行った。生徒アンケート結果のA+Bの数値で、今年7月期の61%が67%に、昨年比でも65%が67%と微増はしているが、目標としている80%には届かなかった。A+Bの数値で、概ねよく声が出ている2年次生と最も低い4年次生の間には19%の開きがあり、学年間でのばらつきが課題である。しかしながら、卒業式では、予行練習でのきめ細かな歌唱指導により、生徒が一体となった校歌等を歌うことができ、厳粛な卒業式を迎えることができた。今後も自らのコミュニケーション能力の向上の観点からだけでなく、集団に属する一員としての社会性の観点を理解させながら、粘り強く指導を行っていきたい。</p> |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p>   | <p>生徒が自ら疑問を持ち課題を見つけ、能動的に学ぶ姿勢をこれからも指導して行ってほしい。母校に対する愛着の感情を芽生えさせるためにも、校歌を大きな声で歌うことの大切さを生徒に伝えてほしい。</p>  |   |  |   |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>                               | <p>アクティブラーニングを推進し、生徒のコミュニケーション能力の一層の向上を図ることで、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせていく。次年度も始業前と放課後の清掃時間の2回校内放送で校歌を流すなど様々な機会を設けて、生徒全員が大きな声で歌うことのできるよう指導していく。</p>         |   |  |   |
| <p>4 キャリア教育を推進し、就労意識を高めるとともに、一年次からの進路指導を充実し、卒業生徒全員の進路実現を目指す。</p> | <p>① 進路実現を図るため各学年ごとに、進路意識の向上を目指した指導を計画的に行う。</p>  | <p>具体的な進路目標を持っている生徒が<br/>A 90%以上である。<br/>B 80%以上である。<br/>C 70%以上である。<br/>D 70%未満である。</p>              | <p>C<br/>(76%)</p>                         | <p>最終の生徒アンケート結果では「とてもあてはまる+ややあてはまる」が76%となり、昨年の82%より低下したが、「とてもあてはまる」の割合は、昨年より増加している。今後、「あまりあてはまらない+まったくあてはまらない」と答えた1年次生の24%、2年次生の31%の生徒については明確な進路目標をもたせるため、更に丁寧に追跡したアンケートを行うなど、指導を充実しさらなる進路意識の向上を図っていきたい。</p>  |
|  | <p>② 生徒および保護者の進路志望を実現するべく、関係機関との連携を密にし、生徒の能力・適性を生かした進路決定に努める。</p>  | <p>進路実現率が<br/>A 100%である。<br/>B 90%以上である。<br/>C 80%以上である。<br/>D 80%未満である。</p>                          | <p>1月現在集計<br/>A<br/>(100%)</p>             | <p>卒業予定者14名の進路希望は、進学希望が4、就職希望が10であった。希望先の決定に時間を要した生徒もいたが、面談や保護者との相談・連絡を密に進めた結果、進学希望者全員が第一志望の専門学校に合格するとともに、就職希望者も12月中にすべての内定を得ることができた。次年度以降の進路実現には、今まで以上の困難が予想されるが、卒業生全員の進路実現に向けて、生徒一人ひとりの実態に応じて関係機関と連携するなど、さらなる進路指導を充実させていきたい。</p>  |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p>   | <p>1・2年次生の進路意識について、なかなか向上しないのは仕方のない面もあるが、外部講師を活用するなど、より充実した進路指導をしてもらいたい。今年度は早期に全員の進路実現が達成されているので、次年度以降もこれを継続してもらいたい。</p>                         |   |  |   |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>                               | <p>進路実現の達成のため、インターンシップや「おもてなし講座」など様々な機会を捉えて計画的な進路指導を行い、進路に対する意識が高まるよう指導していく。今年度にも引き続き、次年度以降も生徒の能力・適性を生かした進路決定に努め、100%の進路実現率となるよう学校全体で指導していく。</p> |   |  |   |